

がん検診等事業所実態調査の結果について（概要）

1 調査目的

第4期山口県がん対策推進計画の策定に向け、本県のがん検診（職域健診）の実態を把握し、より実効性のある受診率向上の対策の立案に活用するため、山口県内の事業所に対して、事業所でのがん検診実施状況や、従業員のがん検診受診状況等の実態調査を令和4年度に実施した。

2 調査方法及び調査内容

調査機関（(株)東京商工リサーチ）への委託により、次の2つの調査を実施した。

（1）【事業所向け調査】職域におけるがん検診等に関する調査

① 調査対象

2,000 事業所（事業所データベースより常用雇用者数 10 人以上の民営事業所を層化抽出）

② 調査方法

郵送法により、調査票を送付して回答を求めた

③ 調査内容

- ・ 検診実施体制（検診実施部位、対象年齢、費用負担等）
- ・ 部位ごとの受診者数、受診率
- ・ 受診のための工夫（受診のための休暇制度、検診費用の助成等）
- ・ がん検診を実施しない理由 等

（2）【従業員向け調査】従業員のがん検診の受診状況等に関する調査

① 調査対象

4,000 人（事業所向け調査対象から事業所規模に応じて層化抽出）

② 調査方法

郵送法により、事業所へ調査票を送付し、事業所が調査対象を選定回収にあたっては、各従業員から直接返送にて回答を求めた

③ 調査内容

- ・ 受診したがん検診の種類
- ・ がん検診受診のきっかけ、動機
- ・ がん検診を受診しない理由 等

※本調査では、国が推奨する5つの部位のがん検診を中心に回答を求めた

【国が推奨するがん検診】

がん検診の種類	検診方法	検診対象者	検診間隔
胃がん検診	胃部X線検査、胃内視鏡検査	50歳以上	2年に1回
大腸がん検診	便潜血検査	40歳以上	年1回
肺がん検診	胸部X線検査、喀痰細胞診		
乳がん検診	マンモグラフィ	40歳以上の女性	2年に1回
子宮頸がん検診	子宮頸部の細胞診、視診、内診	20歳以上の女性	

3 調査期間

令和4年8月22日から9月9日まで

4 回収結果

(1) 【事業所向け調査】職域におけるがん検診等に関する調査

発送数 2,000 回収数 860 回収率 43.0%

(2) 【従業員向け調査】従業員のがん検診の受診状況等に関する調査

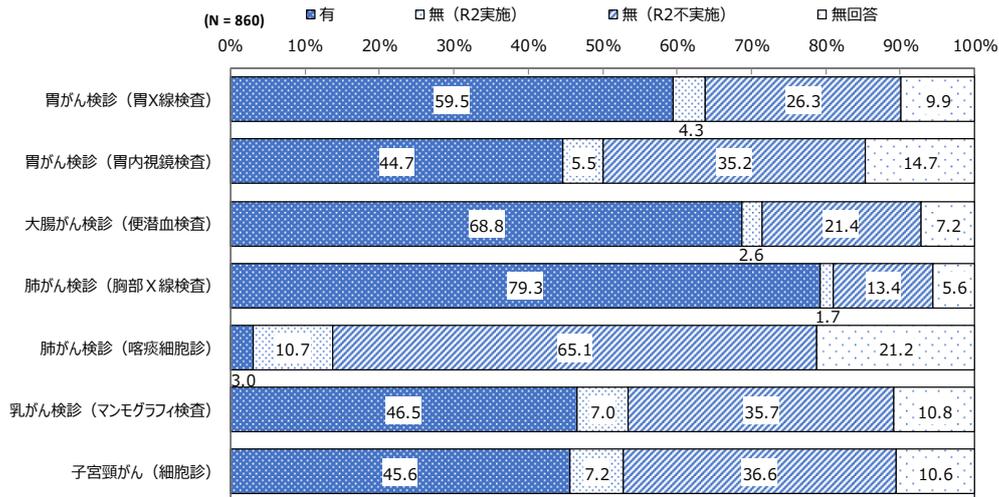
発送数 4,000 回収数 1,694 回収率 42.4%

5 調査結果

(1) 【事業所向け調査】職域におけるがん検診等に関する調査

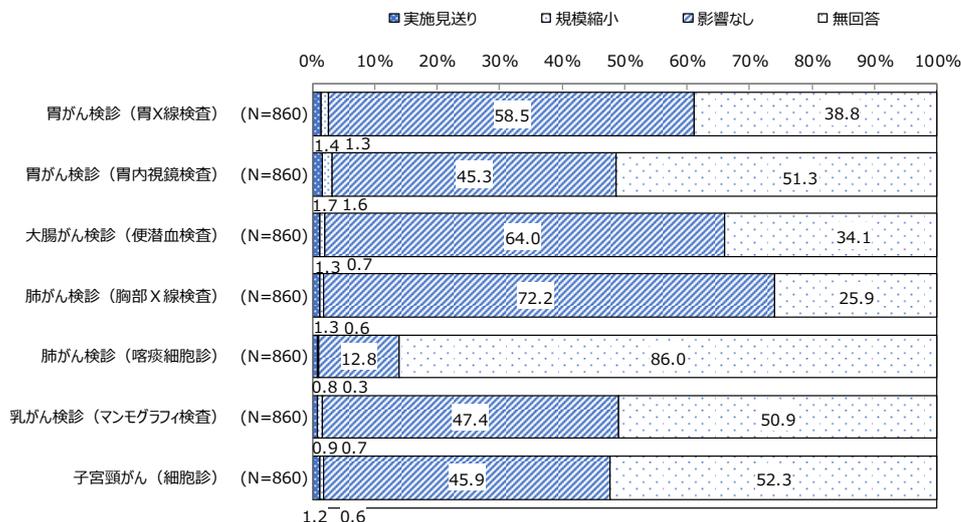
① 事業所におけるがん検診の実施率等

部位別のがん検診実施率をみると、「肺がん検診（胸部X線検査）」が79.3%で最も高く、次いで「大腸がん検診（便潜血検査）」が68.8%、「胃がん検診（胃X線検査）」が59.5%となっている。



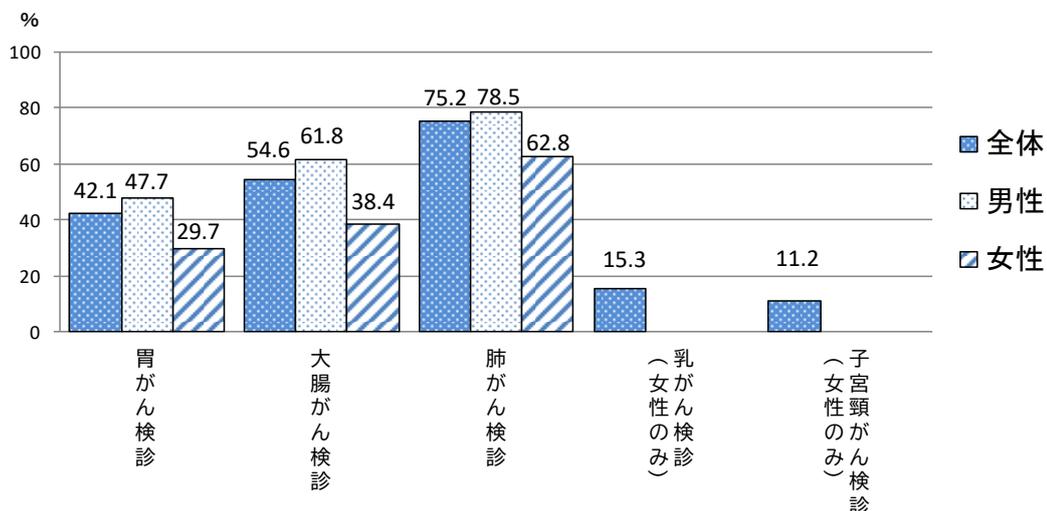
② 新型コロナによるがん検診実施への影響

「肺がん検診（喀痰細胞診）」を除いて「影響なし」が4割を超えている。



③ がん検診の受診率

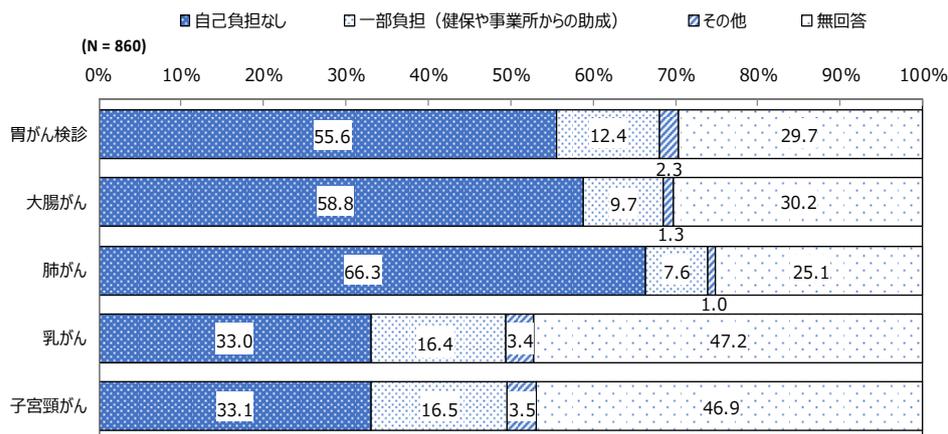
事業所における40歳以上の常用雇用者のがん検診受診率(子宮頸がん検診は全年齢)は、「胃がん検診」が42.1%、「大腸がん検診」が54.6%、「肺がん検診」が75.2%、「乳がん検診」が15.3%、「子宮頸がん検診」が11.2%となっている。



④ 検診費用の自己負担

無回答を除いては、いずれの検診でも、「自己負担なし」が最も高く、次いで「一部負担(健保や事業所からの助成)」が高くなっている。

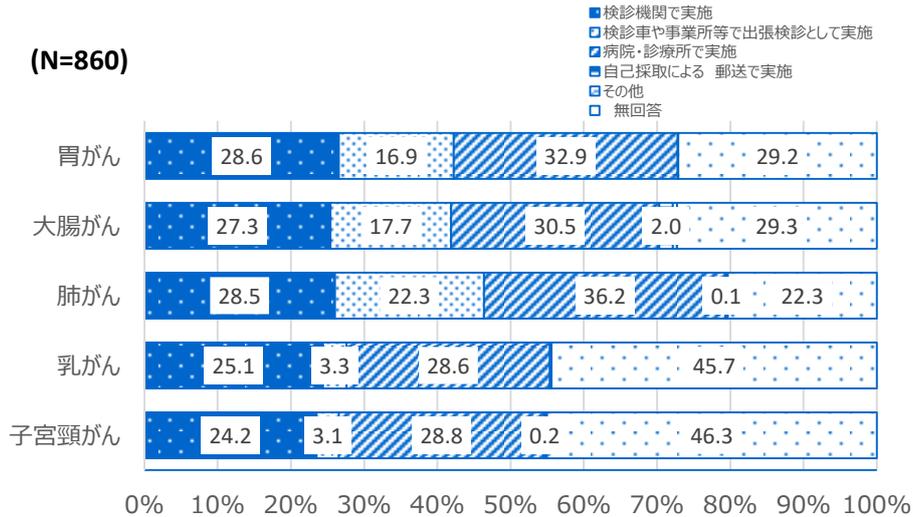
「自己負担なし」は、「肺がん」が66.3%と最も高く、次いで「大腸がん」が58.8%、「胃がん」が55.6%と続いた。「子宮頸がん」と「乳がん」は3割台となっている。



⑤ がん検診の実施場所

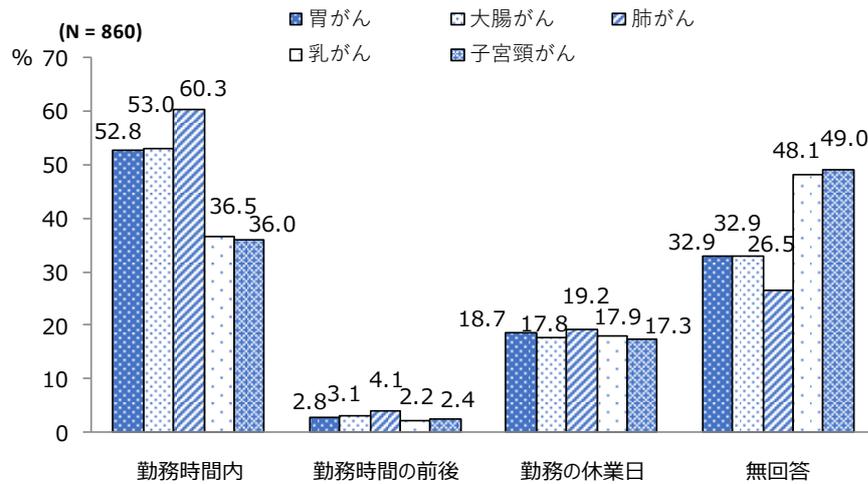
「病院・診療所で実施」しているのは、「肺がん」が36.2%と最も高く、次いで「胃がん」が32.9%、「大腸がん」が30.5%となっている。「検診車や事業所等出張検診として実施」では、「肺がん」が2割を超えている。

(N=860)



⑥ がん検診の時間帯

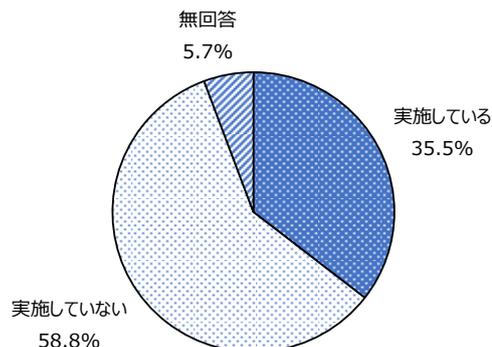
「胃がん」、「大腸がん」、「肺がん」では、「勤務時間内」が5割を超え、「乳がん」と「子宮頸がん」では3割台となっている。「勤務の休業日」では、「肺がん」が19.2%と最も高く、次いで「胃がん」が18.7%、「乳がん」が17.9%となっている。



⑦ がん検診の受診者を増やす取組の実施有無

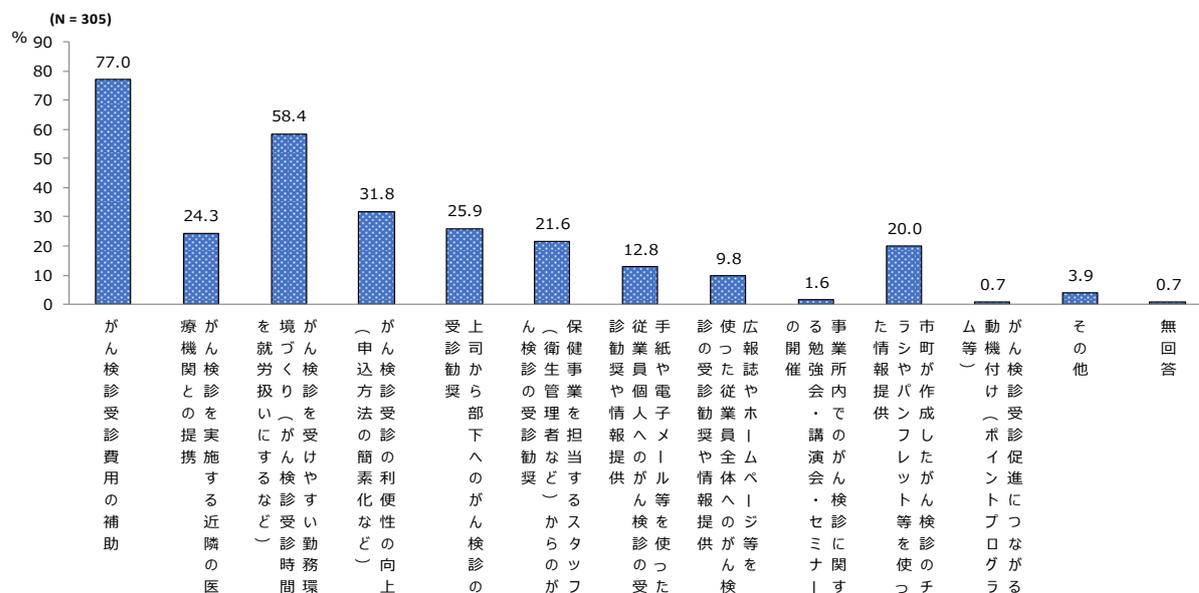
「実施している」が35.5%、「実施していない」が58.8%となっている。

(N = 860)



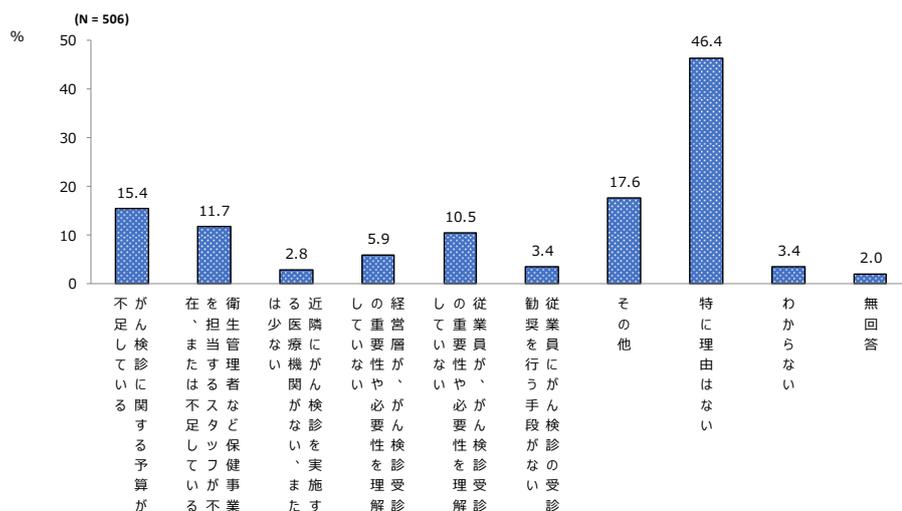
⑧ がん検診の受診者を増やすために実施している取組

実施している取組は、「がん検診受診費用の補助」が 77.0%で最も高く、次いで「がん検診を受けやすい勤務環境づくり（がん検診受診時間を就労扱いにするなど）」となっている。



⑨ がん検診受診者の増加の取組を実施していない理由

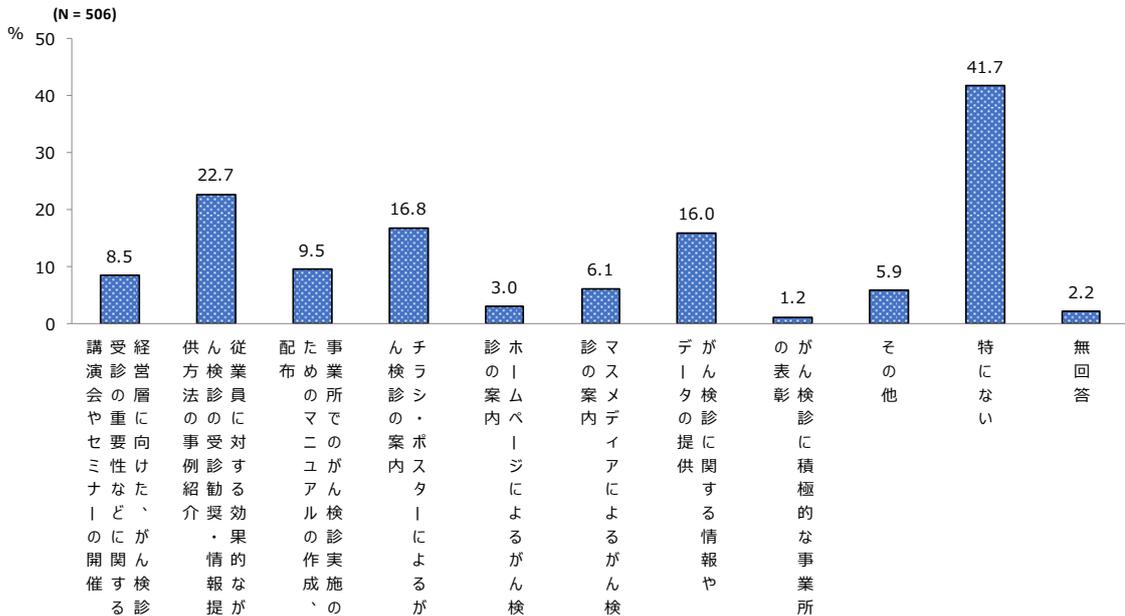
「特に理由はない」を除いた項目では、「がん検診に関する予算が不足している」が 15.4%と最も高く、次いで「衛生管理者など保健事業を担当するスタッフが不在、または不足している」が 11.7%、「従業員が、がん検診受診の重要性や必要性を理解していない」が 10.5%となっている。



⑩ 今後の取組の実施にあたって、行政に期待すること

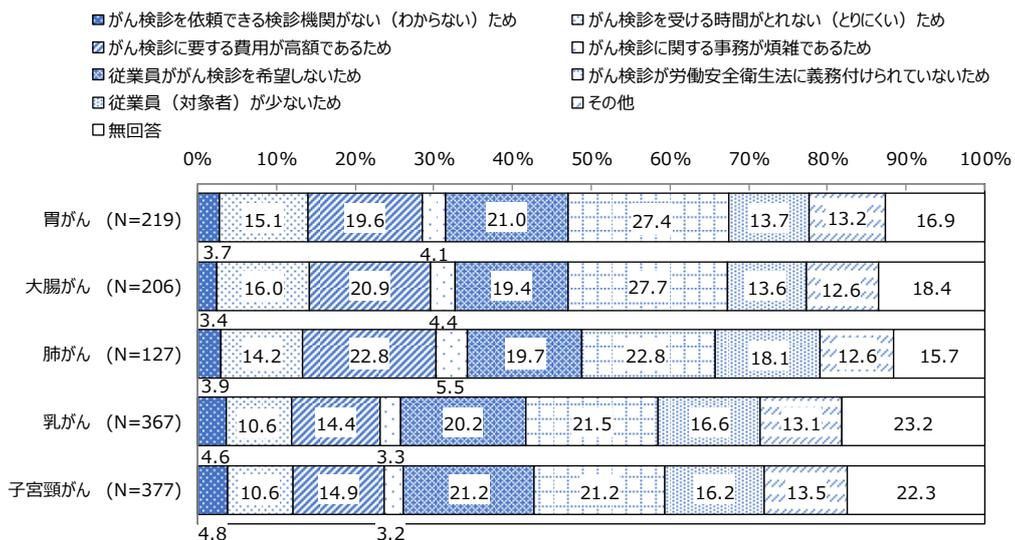
「特にない」を除いた項目では、「従業員に対する効果的ながん検診の受診勧奨・情報提供方法の事例紹介」が 22.7%と最も高く、次いで「チラシ・

ポスターによるがん検診の案内」が 16.8%、「がん検診に関する情報やデータの提供」が 16.0%となっている。



⑪ がん検診を実施していない理由

いずれの検診でも、「がん検診が労働安全衛生法に義務付けられていないため」が2割超で最も高く、次いで、子宮頸がん、胃がん、乳がんでは、「従業員ががん検診を希望しないため」が、肺がん、大腸がんでは、「がん検診に要する費用が高額であるため」が2番目に高い。



⑫ がん治療と仕事の両立を支援するための制度等

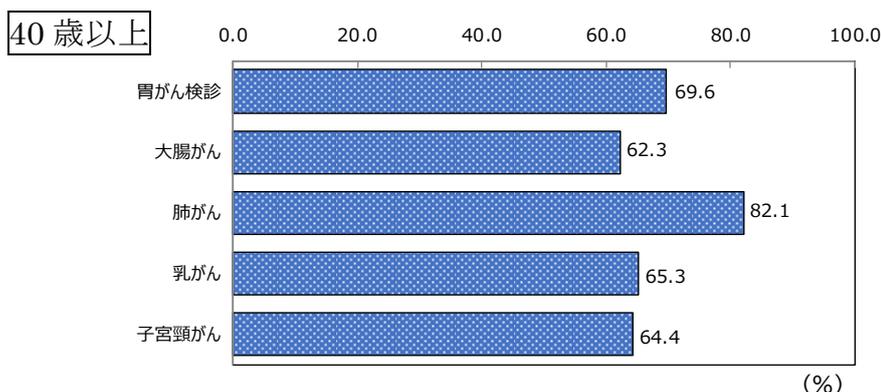
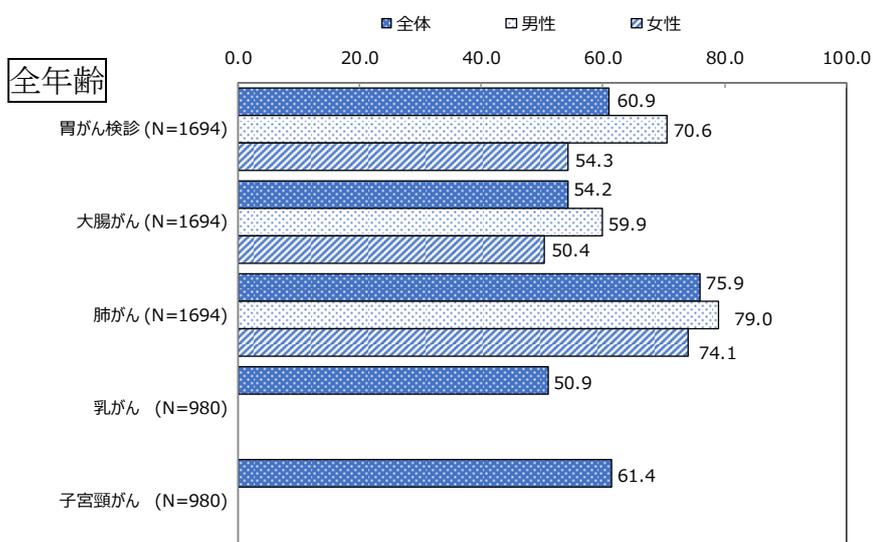
「傷病休暇・病気休暇制度」が 44.1%で最も高く、次いで「時間単位の年次有給休暇」が 32.1%、「勤務時間の変更、短時間勤務制度」が 25.3%と

③ がん検診の受診状況

【全体】いずれの部位も5割以上の者が受診しており、「肺がん検診」が75.9%と最も高くなっている。

【性別】いずれの部位も、男性が女性より受診した者の割合が高くなっており、最も差がみられた「胃がん検診」では、男性（70.6%）が女性（54.3%）より16.3ポイント高い。

【年代別】「胃がん検診」、「大腸がん」、「肺がん検診」では年代が高くなるほど、受診した者の割合が高くなっている。「乳がん」、「子宮頸がん」では40代で最も高くなっている。



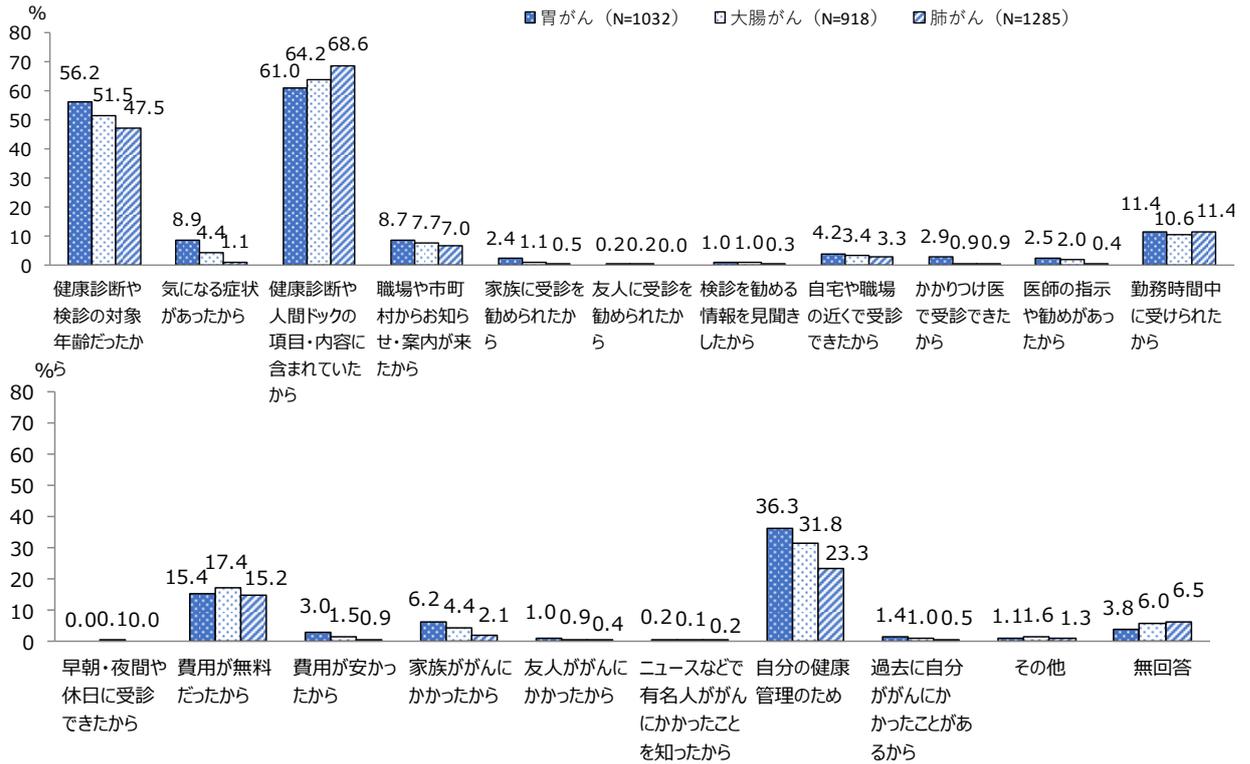
		胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
全体		60.9	54.2	75.9	50.9	61.4
性別	男性	70.6	59.9	79.0	/	/
	女性	54.3	50.4	74.1	50.9	61.4
年代	20代以下	1.7	5.8	38.0	6.7	39.0
	30代	40.0	31.2	59.5	17.8	63.8
	40代	67.4	60.0	80.6	68.5	71.1
	50代	68.7	62.8	81.8	65.4	61.3
	60代以上	76.5	66.3	85.9	55.3	53.4
	40歳以上	69.6	62.3	82.1	65.3	64.4

④ がん検診を受けた理由

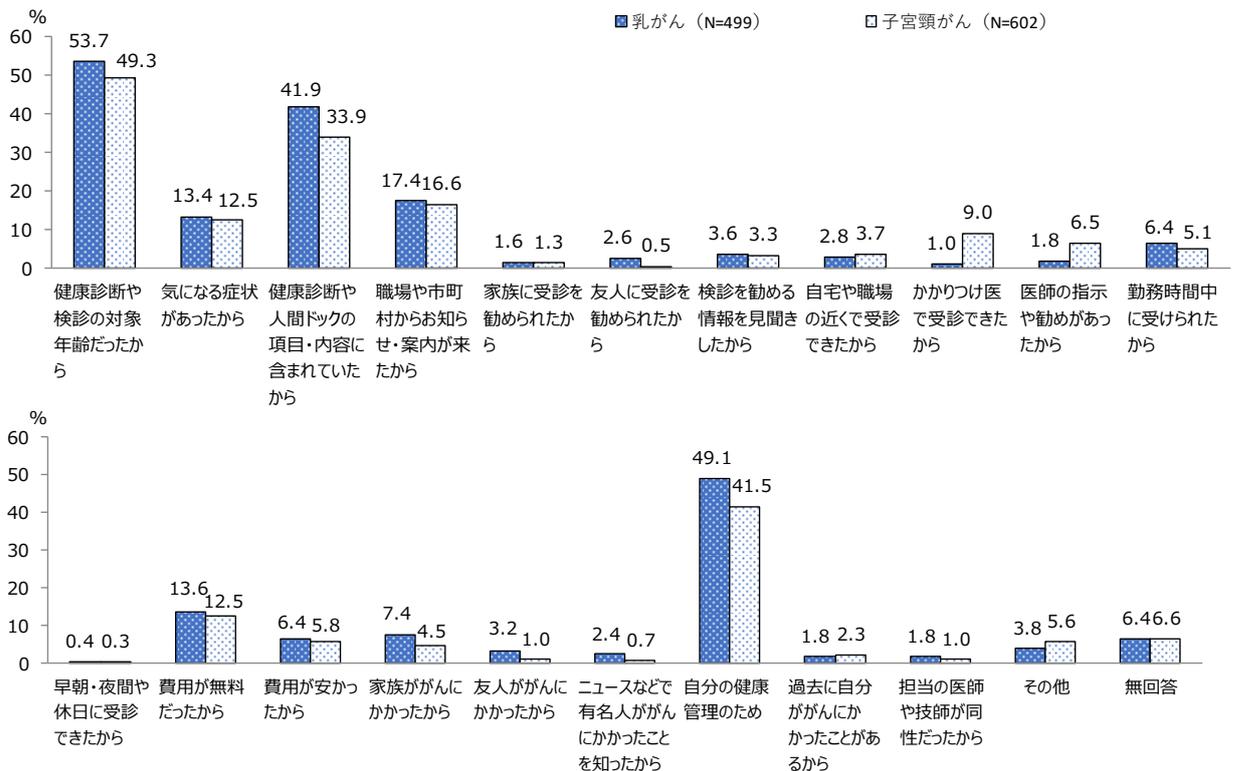
「健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていたから」では、「胃がん検診」と「大腸がん検診」と「肺がん検診」が6割を超えて高くなっている。

「乳がん検診」と「子宮頸がん検診」では、「自分の健康管理のため」が4割を超えて高くなっている。

＜胃がん検診・大腸がん検診・肺がん検診＞



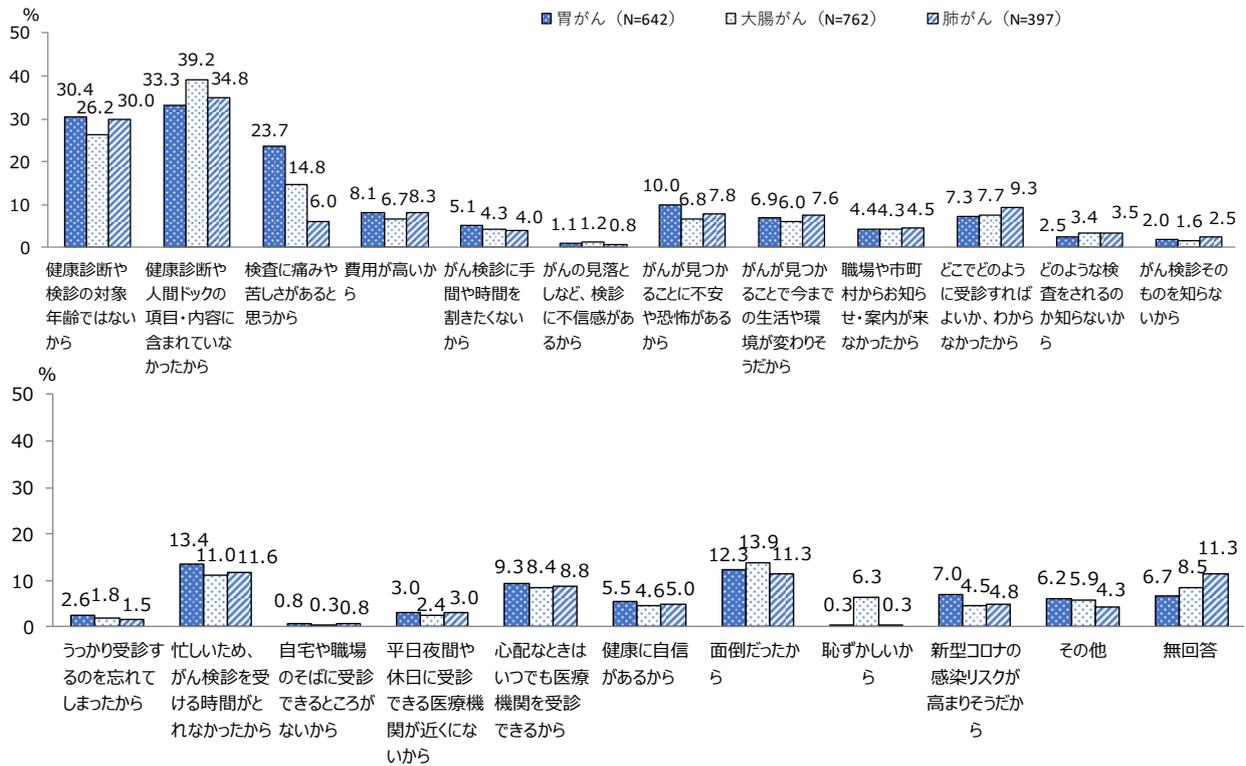
＜乳がん検診・子宮頸がん検診＞



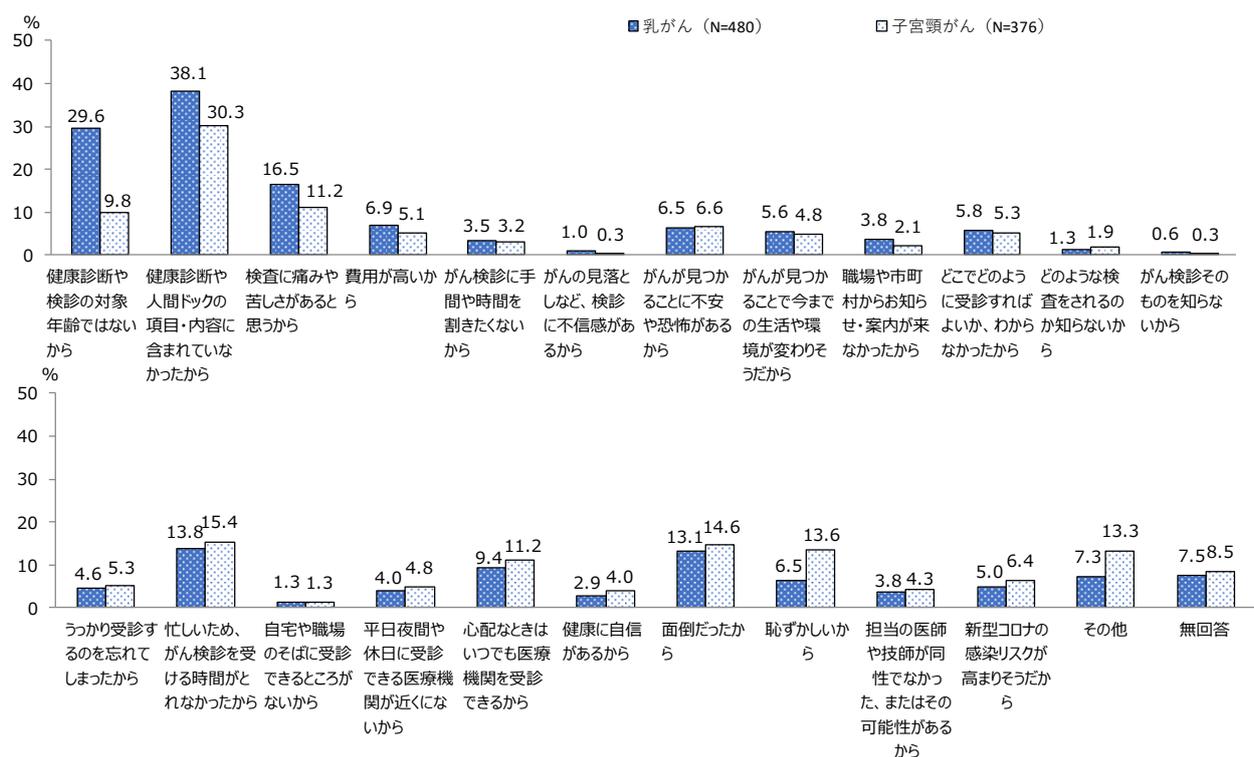
⑤ がん検診を受けなかった理由

いずれの検診でも「健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから」が最も高く、次いで「子宮頸がん検診」を除き「健康診断や検診の対象年齢ではないから」となっている。「子宮頸がん検診」では「忙しいため、がん検診を受ける時間がとれなかったから」が2位となっている。

<胃がん検診・大腸がん検診・肺がん検診>



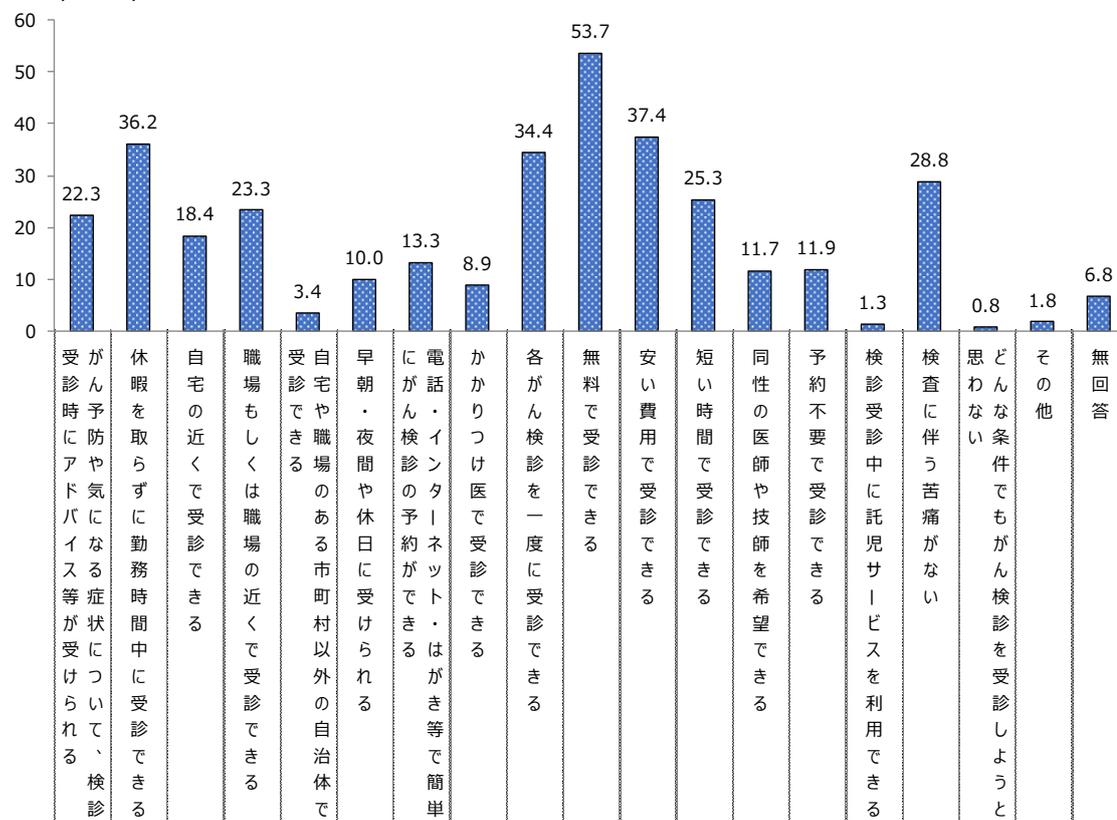
<乳がん検診・子宮頸がん検診>



⑥ がん検診を受けたいと思うきっかけ

「無料で受診できる」が 53.7%と最も高く、次いで「安い費用で受診できる」「休暇を取らずに勤務時間中に受診できる」となっている。

(N = 1694)

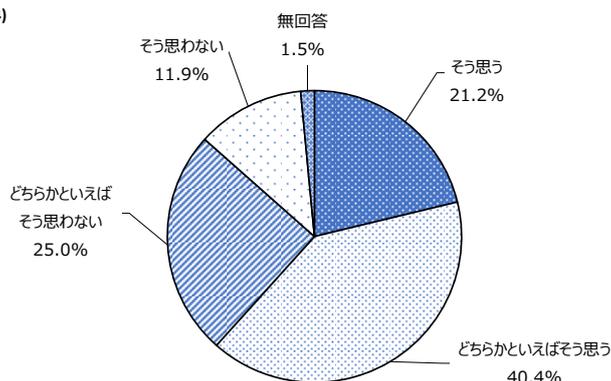


全体		22.3	36.2	18.4	23.3	3.4	10.0	13.3	8.9	34.4	53.7	37.4	25.3	11.7	11.9	1.3	28.8	0.8	1.8	6.8	
性・年代別	全体	1694	22.3	36.2	18.4	23.3	3.4	10.0	13.3	8.9	34.4	53.7	37.4	25.3	11.7	11.9	1.3	28.8	0.8	1.8	6.8
	男性(計)	704	23.4	34.5	17.8	27.4	3.0	8.7	7.2	8.9	29.4	51.8	35.2	24.6	0.4	9.2	0.4	22.3	1.0	1.8	6.5
	男性・20代	16	12.5	18.8	31.3	25.0	6.3	12.5	12.5	12.5	0.0	56.3	31.3	37.5	0.0	12.5	0.0	18.8	6.3	12.5	6.3
	男性・30代	42	21.4	31.0	26.2	21.4	2.4	11.9	7.1	4.8	26.2	69.0	42.9	31.0	0.0	11.9	2.4	21.4	0.0	0.0	11.9
	男性・40代	262	22.9	32.8	14.9	22.5	3.1	8.8	8.0	5.3	28.2	53.8	32.4	27.1	0.4	8.8	0.4	26.3	0.4	1.9	5.7
	男性・50代	229	26.6	40.2	18.3	28.8	2.6	10.5	7.0	9.6	33.2	51.1	37.6	23.1	0.4	10.9	0.4	24.9	2.2	1.7	6.1
	男性・60代	152	21.7	31.6	17.8	36.2	3.3	4.6	5.9	15.1	30.3	44.7	34.9	19.1	0.7	6.6	0.0	12.5	0.0	1.3	6.6
	女性(計)	980	21.5	37.6	19.0	20.6	3.7	11.1	17.8	9.0	38.3	55.3	39.3	26.0	19.9	13.9	1.9	33.8	0.6	1.8	6.3
	女性・20代	105	16.2	44.8	17.1	22.9	1.9	10.5	24.8	8.6	28.6	61.9	40.0	27.6	19.0	12.4	3.8	24.8	0.0	1.9	7.6
	女性・30代	163	19.0	43.6	24.5	22.1	4.3	9.8	24.5	11.0	41.1	60.7	46.6	30.1	25.2	13.5	4.9	33.1	0.6	1.2	5.5
	女性・40代	311	16.4	35.4	19.6	19.9	3.9	10.3	15.4	8.7	36.3	59.5	37.3	26.7	19.0	13.5	2.3	35.7	0.6	1.0	6.1
	女性・50代	292	27.4	38.0	18.5	20.2	3.4	12.3	16.4	9.2	40.1	50.7	38.4	25.0	20.5	16.4	0.0	38.7	0.3	3.4	6.2
女性・60代	103	29.1	24.3	11.7	18.4	4.9	12.6	11.7	6.8	44.7	40.8	36.9	20.4	13.6	8.7	0.0	24.3	1.9	1.0	6.8	

⑦ 職場はがんの治療や検査をしながら働き続けられる環境か

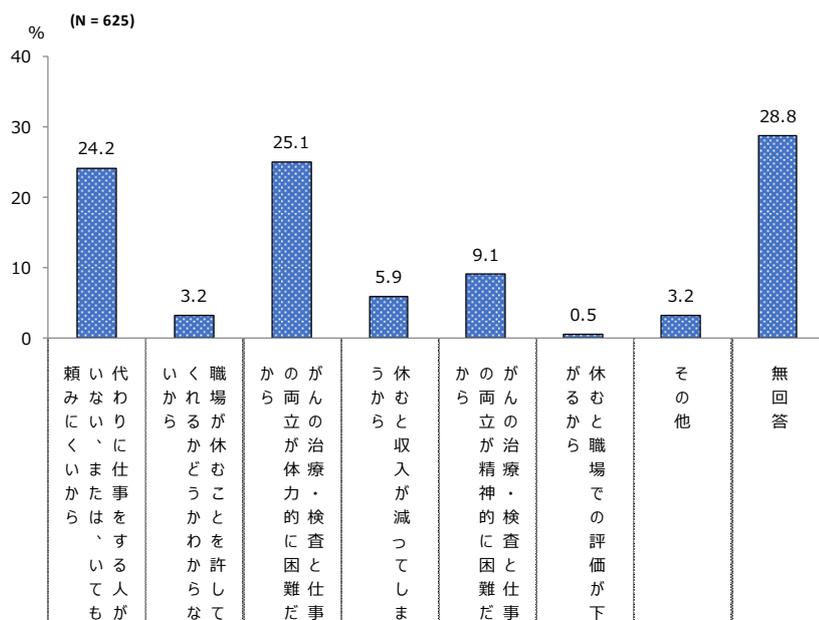
「そう思う (計)」は全体で6割超となっている。

(N = 1694)



⑧ がんの治療や検査をしながら働き続けることを難しくさせている最も大きな理由

「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」が 25.1%と最も高く、次いで「代わりに仕事をする人がいない、または、いても頼みにくいから」24.2%、「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」が 9.1%となっている。



⑨ がん患者が働き続けるようにするために必要だと思う取組

「病気の治療や通院のために短時間勤務が活用できること」が 79.0%と最も高く、次いで「1時間単位の休暇や長期の休暇が取れるなど柔軟な休暇制度」が 61.2%、「在宅勤務を取り入れること」が 36.8%となっている。

